

2-10 その他サーベイランス

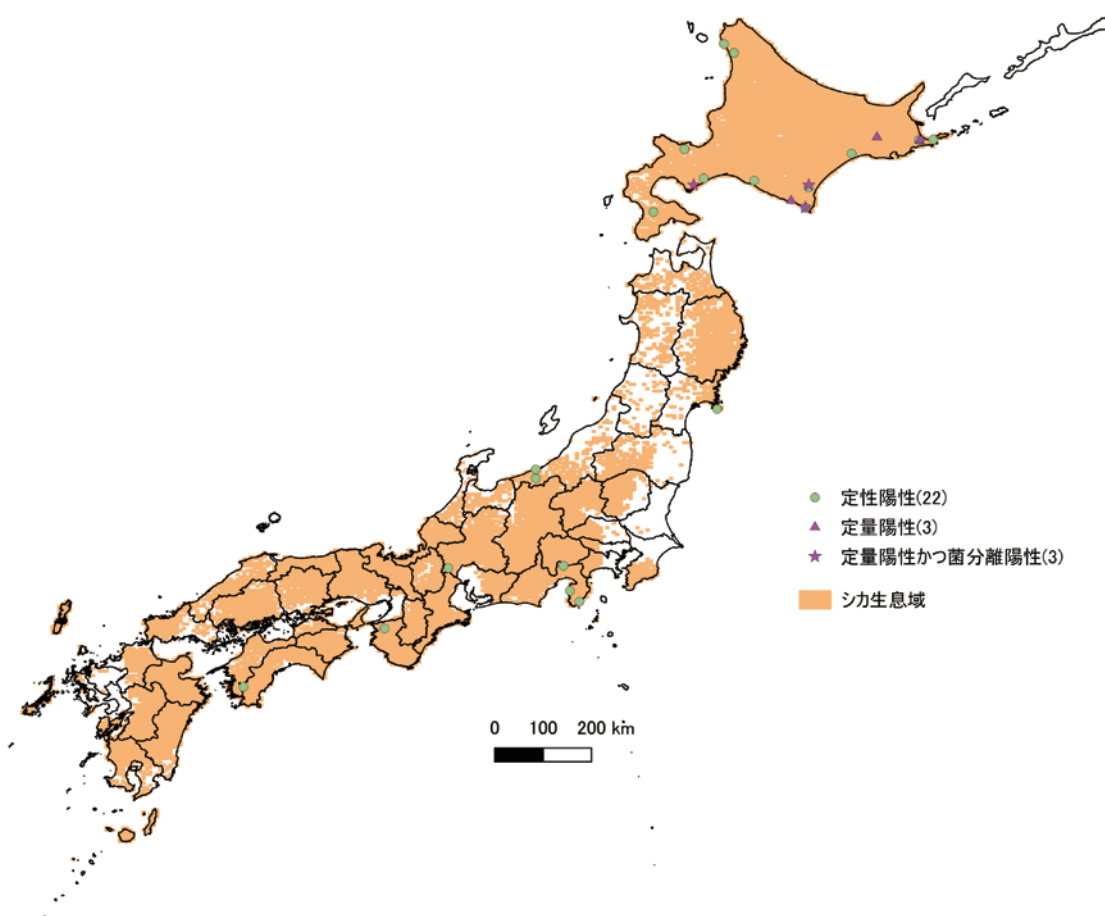
野生動物サーベイランス

野生動物は家畜への疾病の侵入ルートの一つとして指摘されており、家畜の間で清浄化が達成されたと考えられる疾病でも、野生動物の間で疾病が維持されている可能性もあることから、家畜の伝染性疾病の野生動物における浸潤状況を把握する必要があります。このため、農林水産省ではいくつかの野生動物種を対象に、重要な家畜伝染性疾病の浸潤状況を確認しています。

(1) 野生シカのヨーネ病サーベイランス

2016年度から2021年度までに1,531検体（糞便）についてヨーネ病検査を実施したところ、PCR検査により定量陽性（基準値以上のヨーネ菌DNAが検出されたもの）と判定されたものが6検体、定性陽性（遺伝子が検出されたがDNA濃度が低いもの）と判定されたものが22検体ありました。定量検査で陽性と判定されたもののうち、3検体については糞便培養でも陽性が確認されました。

2-10-1図 野生のシカのヨーネ病サーベイランス（2017~2020年度実施）の結果



(注) シカの生息域は環境省のデータ (<https://www.env.go.jp/press/109239.html>) に基づく。

(2) 野生シカのイバラキ病サーベイランス

2017年から2021年度までに904検体（血清）についてイバラキ病検査を実施したところ、2017年度に16検体、2019年度に2検体、2020年度に5検体の陽性が確認されました。

(3) 野生シカの鹿慢性消耗病（CWD）検査

2021年度に採集した検体のうち100検体（延髄）についてCWD検査を実施したところ、全て陰性となりました。

(4) 野生イノシシのオーエスキー病サーベイランス

オーエスキー病は妊娠豚での異常産や哺乳豚での神経症状及び高い死亡率を主徴とする届出伝染病であり、我が国では防疫対策要領に基づいて清浄化を進めてきた結果、飼養豚では2017年を最後に発生が報告されていません。野生イノシシについては、過

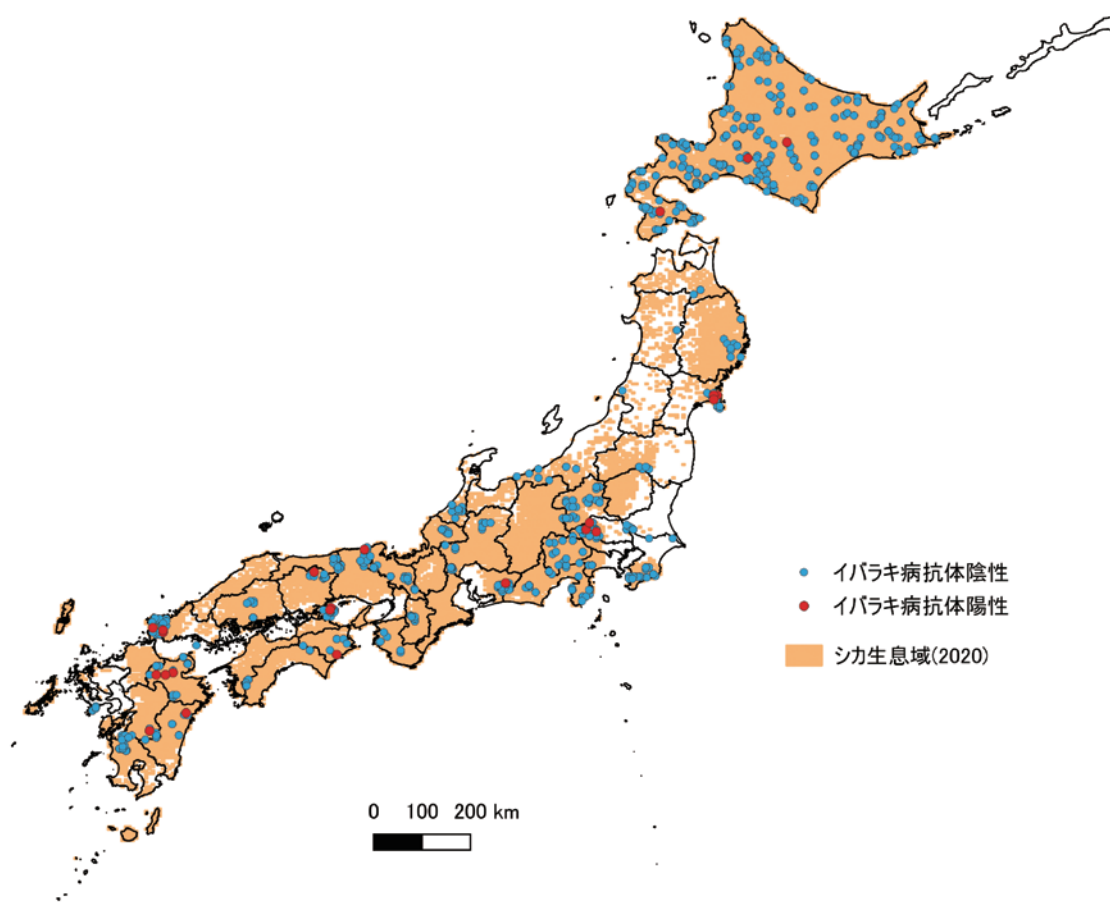
去の調査で陽性が確認された地域を中心に検査を実施したところ、2018年度には11検体、2019年度は5検体の抗体陽性が確認されましたが、2020年度はこれまで野外ウイルス株抗体が検出されていない地域の一部で検査を実施したところ、抗体陽性のものではありませんでした。2021年度も調査を継続しているところです。

野生動物サーベイランスについての詳細は以下に掲載されています。

https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/wildlife_surveillance.html

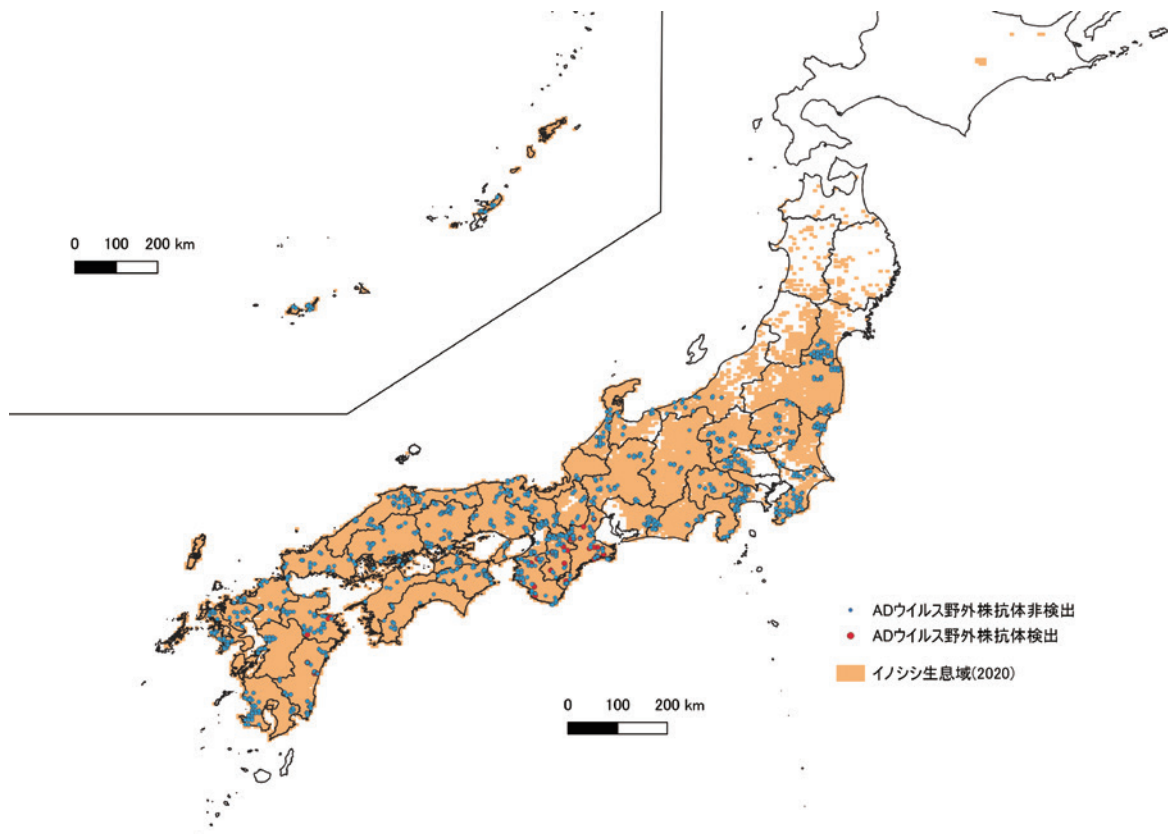


2-10-2図 野生のシカのイバラキ病サーベイランス（2017～2021年度実施）の結果



(注) シカの生息域は環境省のデータ（<https://www.env.go.jp/press/109239.html>）に基づく。

2-10-3図 野生イノシシのオーエスキー病サーベイランス（2018~2020年度実施）結果



(注) イノシシの生息域は環境省のデータ (<https://www.env.go.jp/press/109239.html>) に基づく。北海道で分布が確認されているが、北海道によると、これらは飼育下由来のイノブタを捕獲したものであり、北海道では自然状態でのイノシシの生息はこれまで確認されていない。

